

調査審議事項1「文化芸術振興におけるＩＣＴの活用による情報発信の強化」について

- ・情報発信の仕方は大きく3つ。1つ目。こちらから主体的に情報発信をしていく。文化芸術は元々多様性、ダイバーシティの世界で、この世界を全て網羅的に情報発信すると受け手は混乱するので、分野というかコアをある程度絞り込みながら発信していく。その他、受け手にとって分かりやすい情報発信が何かという観点が必要
- ・2つ目。メディアを通じてどう発信していくかという観点が要る。主体的な情報発信はコストがかかるが、これはお金をかけずに発信できる。今は、スマホでの発信量が劇的に増えている。
- ・3つ目。新宿に来る方、住む方が情報発信のターゲットになるが、来た方々が発信するSNSの量は極めて重要。第三者が写真付きで発信する形になり、賑わい創出に非常に有効
- ・3つの情報の発信の仕方、ルートを意識しながら議論しないと、具体的な取組につながる提言になっていない。そういった観点で、3つ目の新宿に来られる方、住まれる方が自ら発信しようと思うところは、各文化事業者の個別の努力も要る。
- ・来た方がよかったと感じるものは、言葉だけではなく映像とともに発信する形なので、2つのテーマは個別ではなく、賑わい創出という点では、非常に繋がってくるものではないか。
- ・情報発信はコストがかかるプライマリーインフォメーションを出すだけではなく、受け手にも拡散してもらい、そのコミュニティに浸透していくような議論をしてきたが、文化芸術団体がそこまで自身でケアできないのでは。
- ・情報発信のあり方は複雑で、進化もしている。役所だけ、主催者だけが発信する時代は終わった。
- ・林芙美子記念館に相当な人が来ていた。きっかけを聞いたら、インスタやXとかを見てという人が10人位で、そういう発信に変わってきている。外国人も相当来られていた。外国人が、その場でSNSに上げていたので、またお客が増えると思った。
- ・我がまち、ふるさとが賑わっているという感覚を子どもも大人も持つことは、発信力にもなる。
- ・SFMの2か月はお祭りで、土日は今日どこに行こうかなと家族で話すぐらい定着すると、より賑わっていい。それがICTの情報発信の強化である。
- ・発信時に音響や映像に拘ろうと思うと本当に難しい。情報発信に特化するというふうに、強化と明言すれば、そういった形のコンテンツ、情報を作れるのではないか。
- ・例えばフランスのオペラハウスでは、席からのビューの確認、チケット購入、寄附依頼、入場等いろいろなことがシステムティックに仕組みられ、スマホで完結する。タクシーも、キャッシュレス、タッチレス、ペーパーレスで、Wi-Fiが付く。そういう点でICT、情報発信の強化だけでいいのかをすごく感じる。
- ・ICTは、SOMPO美術館は日本の最先端をいき、国際標準になっていると思うが、それ以外のところはなかなか進んでいかないと非常に強く意識した。日本は少し危機感を持ったほうがいいと思う。

調査審議事項2「（新宿区全体への展開を見据えた）新宿駅周辺地域を中心とする地域の文化芸術活動主体の連携の促進」について

- ・西口は、非常に複雑なプロセスを経て都市開発されていくと思う。文化芸術が都市の中に息づきながら、賑わいに資するものになることを願うが、様々な法規も含めてのプロセスの中にうまく入っていかないことには生きていけない気もする。
- ・世界では、文化芸術において都市が生き生きとしている例はいくつもある。そういうことを、然るべきタイミングで差し込むことが、プランに反映されることにも生きようになるのでは。
- ・これから実現する新宿グランドターミナル構想。「主な事業者」は、行政と鉄道事業者も入ってくる。そこに新宿区ができることとすれば、こういうことをやってもらいたいとの提案ではないか。
- ・公開空地での文化芸術の活用等と言うと、池袋駅の芸術劇場の野外劇等ができるスペースをイメージする。野外でできるスペースは、通りがかった人を巻き込めるという意味で賑わいにすごく効果的
- ・鉄道会社のトップの方が、これからは衣食住だけではなくて、遊ぶ、衣食住遊ということがすごく重要と言っていた。今後を考えたときに文化的なものも「遊」だから、絶対に文化が入っていると思う。
- ・新宿駅周辺の再開発も、鉄道系の会社が主体になるが、まちの賑わいとか今後の将来展望等も踏まえて再開発をと思うので、そこに文化的な要素を入れ込む余地は非常にあり、いいタイミングで接触すれば、いい結果につながるのでは。
- ・パリでは、地下鉄からセーヌ川の畔までアーティストが絵を描いていたり、全身に色を塗ってパントマイム等いろいろなことが自由にできる、ある意味パブリックスペース。まさに日常に溶け込むような、そういうまちになるといい。
- ・道路でのライブはいろいろ規制がかかるので自由な場が一番いいが、表現をする場を作ることができるか。
- ・公園を利活用することも多分含まれると思う。公的な空間なのか、地下鉄とか通路とか、できるだけパフォーマンスができるように規制緩和をお願いしたい。
- ・ソラマチは大道芸が盛ん。自由度が高いスペースが確保できれば、自然発生的に湧き上がるのではないか。
- ・花園神社の西の市等、何か新宿ならではの懐の深さみたいなものを楽しめるような空間に発展していくような自由度の高いエリアがあると、とてもわくわくする。

調査審議事項1「文化芸術振興におけるＩＣＴの活用による情報発信の強化」について（SFM関係）

- コア（核）関係
 - ・新宿のまち自体が多様な文化の博物館みたいな考え方があり、これをどう表現していくか。多様性だけに焦点を当てると拡散するので、SFM参加団体の意識をつないでいくための、テーマではなく核をきちんとしていく。
 - ・情報発信が十分ではなく、SFMに対して参加意識もまだ薄いから核を何とかしなければいけない。
 - ・コアを打ち出して、運営体制の強化や運営への参加を促すようなものを、意識的な面でもう一度多様性をうまく訴えていく。そのコアをどう作るかという意識を明確にするイメージチェンジの何らかの言葉が必要
 - ・共通のイメージのために核が必要
 - ・大分先だが、多様性を表現する場というイメージで、SFMの事業や参加団体がうまく生かせるといい。まずコアとしてそんな発想をぶつけてみる。
 - ・それぞれの活動に関して十分情報発信されているが、SFMの発信力としての求心力というか、そこを核と表現したと思う。そこにメディアとしてウェブサイトを持つので、それをもう少し活用の仕方がないかという趣旨と理解した。その求心力をどのように作ればいいのか。今のSFMのサイトは掲示板の域を出ていない。
 - ・3年位前にSFMガイドブックを見て、あまりインスパイアされない感じだった。コアを決めるのは凄く大事。ガイドブックはいろいろな分野のものを載せていて幅広い。それがコンセプトだとは思うが、もう少し絞る。
- 参加関係
 - ・SFMは地区別の形だが、参加意識向上の点から、交流の濃さも考え、分野ごとの集まりを明確に打ち出す。
 - ・「情報発信に特化」があったが、ICTを使う場合でも共通基盤はどこもウェブで、生かされていない部分がある。この強化とそこで多様性を訴えるようなコンテンツを作り上げて継続的に発信することで、参加感を高めていく。
 - ・主催イベントを、ウェブやSNSとの連動性を高めるような、ここで各主体が参加できる構造を作るような立体的なつくりにしたほうがいい。これがSFMの活用という観点での1つの考え方
- ディレクション関係
 - ・東京ビエンナーレは、ディレクターがいて個々の活動はしっかりしている。キャップとして被せるようなコンセプトなりメッセージ性があるってこそそのSFM。SFMというフィルターを通して見るからこそ、新宿の文化の多様性や、まちの魅力が見えてくることをディレクションする機能を設けることが急務
 - ・ディレクションの先のどういうメディアやツールを使って発信するかの中に、SNSの活用やウェブサイトの作り方が伴う気がする。
 - ・SFMにディレクション機能があると、そこを入口として来街者に自身でのアプローチを見つけていただき、新宿区との接点がより日常的なものになり、活性化の裾野が広がるのではないか。
- その他
 - ・SFMのサイトを見たら、新しいものもアップされ、来年のオペラの情報もあった。オペラシティの裏話的な動画をYouTubeで公開しているが、視聴者は少ない。これを改善する。

注）SFM:新宿フィールドミュージアム